

うず潮のなかの英語学科をあとに



英語学科教授 松尾 弐之

例えばアメリカの大学院（アメリカ歴史）で博士課程を終えたのが1976年。在米11年の身で、高度成長期のまただ中に上智大学に着任。それから30余年が過ぎて、ようやく来年3月に定年退職を迎えます。その間に自分がどうの・・・というのは老人の思い出話だから省略。ここで申し上げたいのは、この30年間に、世の中も、英語学科も大きく様変わりした、ということですよ。

まとめて言えば、日本社会も「グローバル化」した。その結果、英語を話すとか、帰国子女であるといったことが、さほど目新しいことではなくなった。たとえば「英語学科」でも新入生の3分の1が帰国子女だし、学科

事務室のある新2号館9階では日本語と英語が入り交じって飛び交う。

世の中が変貌する時代の最先端にいたのが、英語学科だった。それは上向きの潮流に乗るといって幸せな時代だった。いまでも「英語のなめらかな女の子」がマスコミなどでちやほやされる傾向は残っている。でもこれってご存じのように危ういものを含んでいる。

そう。本当の「国際化」とは、英語がなめらかだとか、外国人の友達が多いと言ったことではなくて、「自らと異なる他者をいかに深く理解するか」ということですよ。しかも「他者」は世の中の人間の数だけ居る。すなわち既存概念をかなぐり捨てて、無限の多様性がうごめくあやふやな世界を許容するという精神的たくましさを備えたのが真の国際人。

現実のグローバル化社会は、画一化する一方で、その見返りとして文化の多元性を認めるという流れを生み出している。英語だって標準英語の定義は怪しくなり、ASEAN英語だとかアメリカ黒人の話すEBONICSなどという英語が市民権を得つつある。単一民族などといわれた日本だって「いくつもの日本」という論議にさらされる（東北学の赤坂憲雄など）。安倍新首相は「道州制導入」という政策課題を掲げるが、これだって単なる地方分権と言うよりは地方ごとの文化の認知というテーマを内包している（キャンソンの喪失）。

ということで今後の世界は、多様性が寄り集まってかろうじて平和を維持する、という姿に向かうと思われる（これってアメリカのE Pluribus in Unumですよ）。が、はたして我が英語学科がこういう認識のもとで、真の国際人養成に向かえるのか？ 若い先生方のお手並み拝見といったところだが、古き良き英語万歳の時代に、上げ潮のなかで教員生活をすごささせていただいた私って幸せ者なのか。

『苦楽はバランスで』

高橋麗子 (昭和47年卒)



15年勤めた高校の非常勤講師を辞めて3年。わけのわからない子供達からやっと解放されたと思ったら、今度はわけがわからなくなりつつある夫と私の両親—91歳の父2人と83歳の母2人—さらには不治の病に侵された老犬一匹の介護問題。やれやれですが、こんな状況にめげてられません。日夜、フラメンコダンス、日本舞踊、三味線のお稽古、舞台鑑賞と、仕事をしていた時に貯めこんだ『小銭』の消費に励んでいます。舞台はキャバ30人の小屋から国際フォーラム級まであらゆるジャンルのものを見まくっています。今では、お金の払いがいがあるのは「歌舞伎」と「宝塚」かな?という結論に達しつつありますが—。以下、興味のない方には申し訳ないのですが、歌舞伎と宝塚以外で最近感動した物を3つ紹介させていただきます。その1、松井誠シアターでのショー（京橋にある小さな小屋なのですが2000円で盛り沢山のサービスです。何より、若い役者さん達に触れることができる空間で見られることがたまりません。）その2、上海バレー団公演（京劇と雑技団の伝統を持つ国のバレーは他の国のものとは一味違う気がします、若くて、かっこよくて、優れた男性ダンサーの層の厚さにもうびっくり!）その3、去年初来日したミュージカル『WE WILL ROCK YOU』。あの新宿コマがQUEENワールドになってしまったのですから。（と言っても、私はQUEEN世代ではないのですが）12月に再演されるこのチケットを先日同じコマで「松健の弁慶」（これは例の松健サンバのショー以外、たいしたことありませんでした。）を見に行った時に購入しました。前回より早かったせいか、すっごくいい席が手に入り、今から楽しみです。どうか、当日4人と一匹に何事も起こりませんように!

皆様も、何かお勤めの情報がありましたらお願いします。



『選んだ道』

森部高史 (平成 14 年卒)

97 年次入学の森部高史と申します。教員をした後渡米し、現在は University of Arkansas, Fayetteville の修士課程で Athletic training の勉強をしています。

みなさんはアスレチックトレーナーという職業をご存じでしょうか。「トレーナー」と聞くとジムで重い物を持ち上げている筋骨隆々な方をイメージされるかも知れません。

「トレーナー」には大別すると「アスレチックトレーナー」と「ストレングスコーチ」にわかれます。上記のイメージはストレングスコーチ/パーソナルトレーナーと呼ばれる人達で競技力やライフスタイルの向上を主眼としています。一方、アスレチックトレーナーは主に怪我の予防、診断、評価、応急処置、治療、リハビリ等を行います。また、選手やその家族、コーチ、医師の間に立ち

情報の共有や、選手の精神面のケア等も重要な仕事の一つです。練習 / 試合中に倒れた選手の所に真っ先に駆け寄る人、それがアスレチックトレーナーです。

アメリカでは準医療資格となっており、解剖学、病理学、生理学、救急救命学、栄養学、傷害予防 / 評価やリハビリについて精通している必要があります。日本では、1998 年に文部省 (当時) 認定資格となりました。多くの教育機関が「アスレチックトレーナー講座」を開講していますが日本で「トレーナー」を名乗るのに上記の資格が必要というわけではなく、鍼灸師、理学療法士等の方々が活躍されているケースが多いようです。

アメリカでアスレチックトレーナーを名乗るには National Athletic Trainers' Association の認定校を卒業し、国家試験に合格しなければなりません。どちらが良いというのではなく日米の背景事情で違いが生まれているように思います。

上智大学在学中は体育会ラクロス部に所属し、スポーツに精通はしていましたが、英語学科とは全く別分野に飛び込んだので毎日が挑戦です。午前中は授業、そして午後はフットボール部で実習をしています。7 万 5 千人を収容するスタジアムで活動が出来る幸運を忘れることなく精進していきたいと思っています。この分野に興味を持つ方の一助になればという思いで HP を作成しております。興味がある方はぜひ一度訪れていただければと思います。

<http://startline.at-ninja.jp/>

卒業生短信

9月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください) 皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

University of Technology, Sydney, Australia (UTS), Graduate Diploma, master course を2005年に終了、本年から Golden Grove High School, Adelaide で日本語教師をしております。学校は田園風景の中にあり、素直な学生達です。Adelaide を訪れられる時は、連絡して下さい。Adelaide は、ドイツ語の「貴婦人」と云う意味で、Wine と料理の美味しい街でもあります。

E-mail: oodailu0219@yahoo.co.jp

永田 澄子 (平成14年卒)

< 私が読んで聞かせるので皆様からのお便りを (リハビリになります) お待ちしております > (妻・山下富美子さん代筆)

主人(山下増憲)は平成13年1月14日脳梗塞で倒れ、現在施設に入り身障者の旅を続けております。放送局に勤めてディレクター等しておりましたので皆様から愛される華やかな生活をしておりました。学生時代カトリックの信者になりましたので卒年後も教会壮年会の会長、同窓会長(仙台会長)、町内会長等、昼は世の為人の為とのボランティア、夜は豪快に酒をのむ、人もうらやむような派手な生活をしておりましたので、酒の部は睡眠不足のたたり、倒れたときは仮死状態でした。現在右半身不随、言語は「ナンダ?」以外はしゃべれない。歩行困難、車椅子の生活にもなれ、永平寺の僧ではないけれど自我脱却の修行を神様からさせられているような気がします。そのため瞳も澄んで健康なときより美しい目をしております。今歌入りラテン音楽を楽しんで聴いています。

山下増憲 (昭和34年卒)

いつも会報ありがとうございます。会報が届くと四季の桜や樹々の風を感じます。卒業後、スワヒリ語を学びに東アフリカ(ケニア)へ留学。その時にタンザニアなどを訪れ、それがきっかけとなり、ジャカラング・クラブという趣味で東アフリカ事情や文化を学ぶ会を設立(92)しました。その後、現タンザニア大使とお話しをする機会があり、昨2005年には、EXPOにて、タンザニア・ブースをお手伝いし、ティンガティンガ画家のサポートや、ナショナル・デイ・ビジネス・フォーラムファッションショーのお手伝いもしました。昨年暮には、タンザニアを更に皆様に知っていただけるよう、ギャラリー(タンザニアに特化した日本で初めてのもの)・タンザニアフィリアを開店し、タンザニア大使館商業文科交流・中部地区名誉代表を拝任し、タンザニアのプロモーションにつとめています。名古屋へお寄りの際は、ぜひおいで下さい。

清水 邦子 (昭和53年卒)

訃報

昭和52年卒 星野(谷内)洋子様

オーストラリアのVictoriaにお住まいでしたが、今年7月20日に癌のため逝去されました。

ご同窓の皆様にご伝えて欲しいとのご主人からのメッセージをいただきました。

ご冥福をお祈りいたします。

大使講演会

2004年度にスタートしたSELDAA主催の大使講演会が、今年度から上智大学およびソフィア会主催で行われることになりました。このプロジェクトを立ち上げたSELDAAは「協力」という形で常任委員が企画・運営に参加しています。昭和52年卒の片野順子さんに引き続きコーディネーターとして活躍して頂いています。大学が休暇になる時期を除き、月1回の予定で行われます。今後の予定、第三回10月24日はアルゼンチン大使にスペイン語で講演をお願いしています。11月、12月にも引き続き講演会がありますので、SELDAAホームページにて詳細をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

【講演会に関して】

第一回

2006年6月8日

リトアニア大使 クジス アルギルダス全権大使

講演は全て日本語でした。アルギルダス氏は異色ともいえる経歴の方で、北海道大学に留学し工学部で耐震建築を研究、博士号を修得されました。卒業後、首都のヴィリニウス大学で助教授となり、その後市長などの要職を経て、駐日大使として赴任されました。

大使の流暢な日本語のせいもありますが、リトアニアはヨーロッパの中では日本にとって遠いけど近い国という印象を受けました。おそらく、戦時中の軍部の反対を押し切って大勢のユダヤ人を助けた杉原千畝氏が二つの国に大きな橋をかけたような気がします。

NHKでも数度ドキュメンタリー番組を放送しましたから、日本中にリトアニアの名前は浸透しています。また高校生の英語の教科書にも登場しています。私が高校に在職中には高校生たちとワシントンD.C.のホロコースト・ミュージアムを訪問し、ここでも杉原千畝氏に触れました。生徒たちへの影響は非情に大きく、杉原氏の人道的な姿勢をテーマにしたエッセイを何人もの生徒が書き、コンテストに応募しました。

今回お話をうかがい、多々発見がありますが、その中のいくつかをご紹介します。リトアニアは小国とはいえ、周りの大国に時折ほんろうされながらも独自性を保ち、発展を続けたのはなぜかといえば、一つには美人を多く輩出し、各国の国家元首や王侯貴族に血縁関係を結ぶことによって、政治的な均衡関係と自国の安全保障を維持できたとい

うことです。美貌は力なりです。

独自性を保ち続けたもう一つの点はインド・ヨーロッパ語族に属するリトアニア

語を、サンスクリットに最も近い形で維持し続けていることにあります。サンスクリット語は仏教とともに中国を経由して梵語のかたちで日本に入りましたが、大使は日本に伝わるサンスクリット語の50%を理解できるそうです。

大使はパワーポイントを使って国内の自然を紹介してくれましたがまさに癒しの空間がひろがります。4000もの湖、700にも上る河川、国土の30%が森という名実ともに森と湖のおとぎの国です。一番高い山でも350メートルくらい。夏にはヨーロッパ中から湖一川の旅を楽しむ人々が押し寄せます。

旧首都のトカライは落ち着いたたたずまいでトラカイ城のフェスティバルが有名。音楽とダンスで盛り上がります。カウナスは杉原記念館があり、日本語語学センターにもなっています。そこには日本を象徴する桜の木と、リトアニアを象徴する樫の木が植えられ、両国の堅い絆を物語っています。

本当に遠くても近い国であるとますます実感した講演会でした。「次の海外旅行は絶対にリトアニアだね」帰りの電車での結論です。(長谷川真弓(昭和38外英)さんのブログより転載。全文はSELDAAホームページをご覧ください)



第二回

2006年7月4日

モンゴル大使 レンツェンドー・ジグジッド駐日臨時大使

会員の皆様、こんにちは。先頃行われた大使講演会について簡単にお伝えします。

ジグジッド氏は信州大学で繊維学を学ばれた方で、日本語に堪能で、折り目正しく大変静かにお話しされました。

恥ずかしいことですが、モンゴルについての予備知識はないに等しく、思い浮かぶものといえば、草原とチンギスハンと朝青龍という状態でした。そんな私ですから大使のお話は一つ一つが何でも興味深く、ホッと感心しているうちに1時間半が瞬く間に過ぎてしまいました。

国技は相撲、競馬、弓の3つで、モンゴル相撲は土俵も制限時間もないのだそうです。競馬は30kmも走るというから驚きます。なんと頑強なこと。馬に対する価値観も違うのですね。

国民の4割が遊牧民です。識字率は97.8%と高く、特にIT関連の教育に力を入れています。90年以降日本の開発援助も進み、携帯電話が普及して子供たちも持っているとのこと。草原の国モンゴルだからこその携帯。他国と異なる発展をした電話事情にも改めて納得した次第です。

「ゴビ砂漠」と日本では地名のようになっているゴビですが、実は草原砂漠の中間にあたる地を指す言葉だということも初めて知りました。モンゴルもここ60年で気温が1.6 上昇し、砂漠化が進んでいます。環境対策としてGREEN WALL NATIONAL PROGRAM というプロジェクトが立ち上げられ、様々な対策が実行されています。



パワーポイントを駆使しての講演内容は、政治・経済・文化・自然と多岐にわたり、ここですべてをお伝えできないのが残念です。講演を聴いてからは不思議なもので「モンゴル」という文字がよく目に飛び込んでくるようになりました。これこそが講演会のよさなのだと実感しています。所得格差や牧畜の近代化など、たくさんの難しい問題を抱えながらも現在成長著しい頼もしいアジアの仲間、モンゴル。講演会を機にこれからも注目していこうと思います。

小さな感想をもう一つ。今年は建国800周年にあたり、受付では旅行会社のリーフレットを配付しました。でも大使は講演の中では「どうぞモンゴルへ」といった宣伝はいっさいなさいませんでした。観光局も国の課題のはずですが、講演会に臨む姿勢が現れているようで、きりっと背筋をのばしたお姿と重なり、爽やかな印象を受けました。

懇親会では直接大使とお話しをすることができません。どうぞ皆様も大使講演会に是非お出かけください。次回は10月24日アルゼンチン大使です。

成瀬 洋子さん（昭和48年卒）

大使講演会 11月、12月の予定

第4回「大使講演会」：11月15日（水）イギリス大使

第5回「大使講演会」：12月5日（火）フィンランド大使

SELDAA 講演会のお知らせ

エッセイストとして活躍なさっている、昭和38年卒の長谷川真弓氏による講演会を下記のごとく開催いたします。長谷川氏のホームページでもお分かりのように、広い視野を持って探究心に燃え、かつ明るく物事を捉えるその姿勢をぜひ皆様にご紹介したいと思っています。楽しいひとときに、奮ってご参加ください。

日時：2006年11月22日(水) 18:00～21:00

場所：ソフィアンズクラブ

タイトル：長谷川流 超ウルトラ楽観主義

参加費：500円(スナックと飲み物代を含む)

申込先：参加希望の方は同封の葉書、または、ホームページ
(info@seldaa.net)で、11月15日までにお申し込みください。

<長谷川真弓氏のプロフィール>

上智大学外国語学部英語学科卒業。ご本人“超ウルトラ楽観主義を生きる60代女性”。
パンクバーの雑誌「ふれいさー」専属ライター。
最近開拓社より出た「まずくてありがとう—爆笑エッセ— fromカナダ」が大人気。

2006年度定例総会報告

日時：2005年5月28日(日) 12:00～14:00

場所：上智大学1号館305教室

司会挨拶および議長の選任

司会：飛弾 誠(昭和53年卒)

司会一任で議長：池沢 成実(昭和48年卒)

書記：成瀬洋子(昭和48年卒)

会長挨拶

会長：石川雅弥(昭和40年卒)

悪天候の中での出席に感謝。同窓会員のデータベース化も実現。さらに今後会員のために何ができるかを考えていきたい。

総会議事

1. 2005年活動報告

会報発行(佐藤誠一郎)(昭和53年卒)

春、秋2回発行

SELDAAセミナー(石川)

6月9日 谷口由美子氏 講演会盛況(36名出席)

ニッセル先生傘寿のお祝(石川)

10月18日の誕生日に合わせ、17日にパーティーを開く(33名出席)。お元気に最後まで歓談。

会員デ-タベースの完成と維持管理

(根本竜太郎)(平成15年卒)

住所、氏名、卒業年度一元化。会費の納入状況チェック等これまで手作業で行われていたものが、データベースの完成により昨年10月からすべてコンピューターで作業。ただし、コンピューターの入力ミスに因る過ちも生じやすいため、注意を要する。

個人情報保護法とソフィア会の連携(根本)

2005年4月個人情報保護法施行

情報漏洩防止対策

1. データはスタンド・アローンPCに入れている。

2. パソコンには鍵をかける。

3. パスワードを使用

ソフィア会(9万人のデータを管理)

英語学科は新しい卒業生のデータをソフィア会より入手する。データのやりとりはソフィア会との取り決めに基づいて行い、パスワードを使用(ソフィア会との連携は英語学科が初めて)。

ウェブサイトの維持管理

現在ホームページ(<http://seldaa.net>)を月に1回更

新している。第一号から最新号までの会報誌をPDFで閲覧できる。また、読者からも投稿できる。

2. 2005年度決算報告（飛弾）

4月5日に前任者の東郷先生の担当で会計監査が行われ、間違いの無いことが証された。

議事1～2について一括審議の結果、出席者全員の承認が得られた。

3. 2006年度活動方針（石川）

1. 会報発行

春・秋、年2回の予定。原稿集め乞う協力

2. ソフィア会との共催による

「大使講演会」の開催

大使講演会は2004年SELDA A主催で3回行ったが、セキュリティの問題や担当者の負担増等で頓挫していた。このほどソフィア会より、この企画の意義が大学としても大きいとの賛同を得て再開の運びとなった。

経費はソフィア会が負担。8月、12月を除く毎月1回開催。第1回6月8日（木）/ 18:30～20:00 / 2号館17階

クジス アルギルダス リトアニア全権大使
共通テーマ：「世界は今、異文化共生社会をめざして」

主催：上智大学ソフィア会・上智大学

協力：SELDA A

参加資格者：在学生、卒業生

3. SELDA A セミナー

卒業生を講師に招き、年に1～2回実施したい。

4. 同窓会事務のマニュアル化、常任委員の負担減、事務の簡素化を図り、誰もが参加、協力しやすい同窓会を作っていく。

5. 会員データベースの活用法の検討

ウェブサイト、会報誌を通じ、同窓会の活性化に結びつくアイデアを求める。

4. 2006年度予算案（飛弾）

会議費前年度より5万円減 事務処理費5万円増
会費収入は前年度並みの150万円を見込む
名簿作成積立金、0円

<以上について質問>

大使講演会について

対象は在学生、卒業生中心とし、参加費は無料。一般人は知人、関係者にとどめる。セキュリティ向上、申し込み制を取る。FAX, E-MAILで直接ソフィア会に申し込む。

名簿作成について

これまで卒業生名簿は3年ごとに更新してきた。今年度は更新の年に当たり、予算もあるが、個人情報保護法についての世論の動向を見定めた上で発行するかどうかを決定するものとし、今年度の発行は見合わせる。

なお、今後発行しないとするなら、規約改正が必要となる。

議事3～4について出席者全員の承認が得られた。

5. 会計監査の選任

井坂由美子さん（昭和47年卒）と岩村玲子さん（昭和49年卒）の退任

落合彰子さん（昭和46年卒）と安西徳子さん（昭和49年卒）の就任

出席者全員の承認が得られた。

その他

同窓会の財政状況（石川）

現在会費を納めているのは同窓会会員の25%でそのうち90%は終身会員。会費収入は減り続け、支出を押さえる努力はしているが、繰越金が1500万円を切っている。理解を求め、会費納入キャンペーンをする必要がある。

最近理解と関心が深まったソフィア会との連携による活性化に期待したい。

<参加者より、膨大な量の会員データベース化を成し遂げた役員の仕事に感謝しますとの温かい声があり、役員の方こそ有り難い。>

懇親会

出席者21名と少ないながらもミルワールド先生のご出席を得て、明るく和気あいの語らいが続いた。来年はたくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

以上

2005年度 上智大学英語学科同窓会 収支決算書

自 2005年4月1日 至 2006年3月31日

収入額 18,843,217円
 支出額 4,099,214円
 次年度繰越金 14,744,003円

(単位：円)

	科目	予算	決算	備考
収入	1.繰越金	17,359,633	17,359,633	
	2.会費	2,000,000	1,467,000	
	3.受取利息	150	84	銀行預金・郵便貯金の利息
	4.講演会参加費	0	16,500	講演会参加費 500円×33人分
	合計	19,359,783	18,843,217	
支出	1.名簿作成積立金	600,000	600,000	
	2.会報費	3,000,000	2,723,131	印刷料、発送費用
	3.SELDAAセミナー	200,000	94,913	講座謝礼、懇親会費補助など
	4.交流促進費	300,000	225,410	ウェブサイト維持管理費
	5.総会費	100,000	99,075	懇親会費
	6.会議費	150,000	53,685	常任委員会など
	7.事務処理費	350,000	303,000	
	9.予備費	14,659,783	0	
	合計	19,359,783	4,099,214	
			14,744,003	2006年度に繰越

2005年度繰越金内訳

郵便貯金振替口座	13,660
郵便貯金ば・る・る口座	1,392,710
東京三菱銀行普通口座	2,830,395
現金	10,507,238
合計	14,744,003
みずほ銀行(名簿積立)	1,885,447

上記の通り、相違ないことを認める。

2006年4月5日

会計監査 井坂 由美子 (1972年卒)

岩村 玲子 (1974年卒)

2006年度 上智大学英語学科同窓会予算(案)

自 2006年4月1日 至 2007年3月31日

(単位：円)

	科目	予算	備考
収入	1.繰越金	14,744,003	
	2.会費	1,500,000	入会金を含む
	3.受取利息	100	銀行預金・郵便貯金の利息
	合計	16,244,103	
支出	1.名簿作成積立金	0	
	2.会報費	3,000,000	会報42・43号
	3.SELDAAセミナー	200,000	SELDAA独自主催セミナー
	4.交流促進費	300,000	ウェブサイト維持管理費、会員間交流事業費等
	5.総会費	100,000	資料作成・懇親会費等
	6.会議費	100,000	常任委員会等
	7.事務処理費	400,000	データ作成・維持管理に伴う外注費、通信費、消耗品費等
	8.予備費	12,144,103	
合計	16,244,103		

新しく同窓会の会員になられた皆さんへ

この英語学科同窓会（SELDAA）の会報誌は年に2回発行されています。今年卒業された皆さんへは初めての発送となります。是非ご愛読いただきますようお願いいたします。英語学科の卒業生も今や7,500人を超え、実にさまざまな分野で活躍されています。SELDAAは、そうした卒業生の間での親睦を深め、また、現役の学生たちを支援するために作られました。その目的の達成のため、会報誌以外に、SELDAAセミナーの開催、大使講演会の開催、ホームページの運営等を行っています。こうした様々な活動は、会員の皆さんからの会費納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化のために、是非皆さんも会費を納入して下さるようお願いいたします。詳細については、最終ページをご覧ください。

【お詫び】

前回発行の会報誌43号に關しまして、一部の会員の方への会報誌二重発送、同封振込用紙裏面記載の銀行口座番号の誤印刷、という手違いがあり、会員の方々に混乱とご迷惑をおかけするという事態が生じました。

1. 一部会報の二重発送について

原因はSELDAA事務局にて実施している宛名ラベルの印刷の際、入力作業のミスにより一部ラベルが二重に印刷されてしまったためです。

2. 口座番号誤記について

正確な番号は下記のとおりです。

三菱東京UFJ銀行京橋支店 普通預金

口座番号 1173610 (180334は間違いです)

なお、振込用紙の表面を使用しての郵便局経由での振込みには問題ありません。この件に關し、会費未納の方に訂正の葉書を後日お送りいただきましたが、今回同封しております振込み用紙には正しい口座番号が印刷されていますので、ご利用の程お願い申し上げます。

以上ご報告方々お詫び申し上げます。今後、このような間違いが無い様、役員一同気をつけてまいりたいと思ひます。

会員の皆様には今後ともSELDAA活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

SELDAA事務局

上智学院100周年事業について

従来、SELDAは上智ソフィア会の協力は得ながらも、組織としての有機的なつながりはありませんでした。この度、SELDAはソフィア会と正式な手続きを完了して個人情報の管理・共有ができるようになりました。同窓会としては、今後、さらにソフィア会との連携を深めていきたいと思っております。

つきましては、会員の皆様には昨年秋に大学から「上智学院100周年記念事業募金」の趣意書が届いたと思いますが、下記のごとく、ソフィア会が小額でも受け付ける口座を開設しました。皆様のご協力をお願いします。

上智大学ソフィア会募金委員会からのお願い

上智大学ソフィア会では、上智大学創立100周年記念募金に積極的に協力するために、1万円未満の金額でも気軽に募金していただける口座を独自に設けました。ご入金いただいたお金は、総額が10万円以上になる度にご協力いただいた方々のお名前と共に、責任を持って上智学院財務局募金室に届けます。恐縮ですが、振込手数料はご負担をお願いします。なお、1万円以上振り込まれた場合は、上智学院より証明書が発行され免税措置が受けられます。是非、母校の将来のためにご協力をよろしくお願い申し上げます。

<お振込先>

郵便振替0013-8-483122「100周年募金ソフィア会口座」

郵便局から郵便振替で送金される場合は、払込人の住所・氏名・電話の記入欄にもれなくご記入の上、通信欄に「卒年・学部学科」をご記入ください。

銀行振込 三井住友銀行 麹町支店(店番号 218)

普通預金口座 8792914「100周年募金ソフィア会口座」

銀行からのお振込の場合は、「お名前・ご住所・お電話・卒年・学部学科・お振込額・お振込日」を郵便・FAX・メールのいずれかでソフィア会事務局までお知らせください。

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学ソフィア会内

E-mail:sophiabokin@sophiakai.gr.jp

電話 03(3238)3041 FAX.03(3238)3028

上智大学ソフィア会募金委員会

委員長 本多義人(ソフィア会会長)

座長 和泉法夫(ソフィア会副会長)

委員 細川佳代子、大河原毅(ソフィア会副会長) 戸川宏一、劔持睦子、秋元征紘、槇原尚樹、師岡文男、阿部修平、三溝真季、宮城信夫、高橋喜代子、今井雅人、矢野祥子(ソフィア会常任理事)

SELDAのホームページについて

英語学科同窓会が設立されたのは1983年。そして、今や、英語学科の卒業生は7500名を越えています。ホームページは2004年5月にリニューアルしました。「知らないなんてもったいない」をキーワードに、会員に対して同窓生の動向や英語学科の様子などのタイムリーな発信に努めています。まだご覧になっていない方は、是非覗いてみて下さい(<http://seldaa.net>)。20年以上に亘り毎年2回発行している第一号から最新号の会報誌までの全ページを閲覧することもできます。会員間の交流に、そして、情報収集のツールとしてご利用ください。

会員の皆様へのお願い

上智大学英語学科同窓会(SELDA)の個人情報管理について同意いただけるかどうか、ご確認をお願いいたします。

SELDAでは、昨年4月からの個人情報保護法施行に伴い、SELDA会員の個人情報の管理にこれまで以上に慎重に対応しております。そのガイドラインについては、会報誌第41号でご報告し、SELDAホームページ(<http://seldaa.net>)上でもご報告しておりますので、会員の皆様には内容をご覧いただきご確認をお願いいたします。このガイドラインの内容に同意されない場合はSELDA事務局までお申し出ください。それぞれに対応させていただきます。

住所変更の通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください。同窓会事務局でいただいた変更通知は、「個人情報保護法」を尊重し必要な手続きの上、ソフィア会事務局にも通知します。

住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

また、最近はい市町村合併などによる住所の変更が多くなっております。是非最新の住所、電話番号等をお知らせください。

住所・勤務先の変更等は、同封の葉書をお使いいただくか、SELDAAのホームページの「住所・勤務先変更フォーム」(http://seldaa.net/about/change_form.html)から送ってください。

SELDAA より、募集とお知らせ

SELDAAでは、皆様よりこの会報に掲載する記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、同窓会事務局宛にどしどしお送りください(写真も大歓迎)。

この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせはこちらまで。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局
FAX.03-3238-3910 E-mail:info@seldaa.net
(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金 : 1,000円
一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)
終身会員 : 一括払い 20,000円

あなたの会費納入状況

英語学科同窓会では、昭和32年から平成18年までの英語学科卒業生7,506名の会員データをコンピュータ化しました。それに伴い、会員の納入状況をより明確にお伝えすることができるようになりました。封筒の宛名ラベル右上にある日付は、例えば、「2006年3月31日(2005年度分)まで会費が支払われていることを示します。会費は年度単位で管理されています。「終身会員」「名誉会員」は表示の通りです。会費未納の方は、ラベルの右上に「願」と書かれています。

事務局では、データの正確な入力に最善を尽くしておりますが、表示内容に疑義や質問のある方は事務局までお知らせください。

SELDAA 常任委員 (2006年3月現在)

名誉会長 / 草深 武 (英語学科長)
会 長 / 石川 雅 弥 (昭和40年卒)
副会長・事務局長 / 池 沢 成 実 (昭和48年卒)
副 会 長 / 大日方聖信 (昭和62年卒)
会 計 / 飛 弾 誠 (昭和53年卒)
会 報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
常任委員 / 東郷公徳 (昭和62年卒)
成瀬洋子 (昭和48年卒)
根本竜太郎 (平成15年卒)
林めぐみ (平成13年卒)
監 査 / 落合彰子 (昭和46年卒)
安西徳子 (昭和49年卒)